

植物と人々の博物館メールマガジン

第 116 号 2024 年 10 月 1 日発行



~~~~~

ヒガンバナが遅ればせながら咲き始め、ツクツクホウシが 1 匹鳴いていました。オシロイバナの花色の変異はとても面白く、興味が尽きません。トチの実をたくさん拾いました。クリとはまた異なった愛嬌があります。もう枳餅を実から拾って作る人はいないのでしょうか。大滝の玉吉さんに作っていただいたのはもう 30 年ほど前でしょうか。相当の伝統的な技術がいります。

植物と人々の博物館は社会的共通文化財である植物標本、民具、文献資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、連携しているタイ・日本自然クラブの展示も再開したいです。ご利用くださり、整理もご一緒に手伝っていただければありがたいです。できることなら、これらの資料は公共の場所を確保して、広く公開し、ご活用願いたいです。

### 1. 植物と人々の博物館

○開館・作業予定日： 10 月 8 日および 28 日、10：30～14：10 に開館予定です。8 日はベトナムから一時帰国の伊能さんが来てくださいます。さく葉標本を選別し、民具、書籍の整理を行います。公共の知的財産として活用していただけるように、ご協力いただけると嬉しいです。ご協力いただける方があれば曜日や日時は調整できます。また、資料など閲覧したい方はご連絡いただければ、日程調整してご案内します。担当 木俣 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

主な作業：

- ①書籍・資料の整理
- ②民具の整理
- ③展示の企画：たとえば、タイやインドの民具、自然文化誌研究会（学大探検部）50 年記念
- ④植物腊葉標本整理、台紙に貼る作業など、
- ⑤その他

○予定

1) 民族植物学ノオト第 18 号は 2025 年 3 月末に発行する予定です。年内にご寄稿ください。「環境教育学会史における認識の修正ないし異見」などを準備しています。また、自然文化誌研究会創立 50 周年の特集を加える予定です。これまでの記録集を整理しておきます。すべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。意外に相当数の方々が読んでくださっています。 <http://www.ppmusee.org/goods.html>

## 2) 電子書籍：

編集子の自選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は、主な海外フィールド調査ノートをデータベース化して公開しました。誤字、脱字、誤変換などは、もう一度、最終改訂する機会に修正します。第6章北インド、第8章西インドを書きました。退職後10年計画で進めてきた自選集全6巻は未完成で、11年目でやっとインドの核心地域の佳境に入りました。また、50年の研究成果の概要をまとめとして栽培穀物の起原、栽培化過程、および伝播におけるインド亜大陸の重要な歴史的役割を解き明かす新仮設モデルを提案します。全研究のまとめを済ませたら、英文要約版（第5巻“Essentials of Ethnobotany”）を書くところまでは、あと数年頑張ります。とても面白いですが、1000ピースのジグソーパズルのようで、とても複雑で難しいです。同時に、自選集 III『日本雑穀のむら』の補足として、40年前の北海道調査における開拓農家やアイヌ民族の人々などとの対談テープの文章化を始めました。自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加しています。

3) 公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>も国会図書館インターネット資料収集保存事業 (ndl.go.jp)で毎年1回7月20日頃に収録されています。すべての記事は無料で公開しています。ここに保存されている記事は記録として残りますので、ありがたいです。国会図書館の文献録には博士論文や科学研究費報告書などまで集成されており、とてもありがたいです。

4) 森とむらの図書室への寄贈など 現在所蔵する書籍や文献を整理して、ご利用していただけるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実しています。国内外の調査時におけるスライド35mmも、こちらに置きます。リスト作りや番号貼りなど、ご協力いただけるとうれしいです。日本語の書籍は大方整理を終えたいです。

<https://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html>

## 5) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている1円玉からする任意募金をお願いしています。これまでにゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただきました。ありがとうございます。植物と人々の博物館への寄附あるいは整理作業のご協力を、よろしく願います。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。標本、民具、書籍などを社会的共通文化財として公共の施設で保存・公開するために、費目指定でご寄附をいただけるとありがたいです。これまでに、多くの方にご寄附を頂き、感謝しています。郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

## 2. 自然文化誌研究会（学大探検部：東京学芸大学自然文化誌研究会冒険探検部）

○予定の詳細は下記ホーム・ページをご覧ください。INCH まつりや真冬のキャンプを企画しています。

### 1) INCH 祭りライブ

10月5日～6日、小菅村キャンプ場

### 2) 真冬のキャンプ

12月27日～29日、小菅村キャンプ場

## ○報告

1) 自然文化誌研究会（東京学芸大学冒険探検部）は来2025年に創立50周年を迎えます。今までの活動履歴を示す資料集をまとめています。とりあえず、下記で一部公開しています。大学探検部は全国に20ほどはあります。

<https://www.millettimplic.net/archives/historyinch2025.html>

2) 来年は創立50周年ですから、運営委員会で話し合いが始まりました（7月23日）。『50年史』をまとめるとか、50年間に関わった人々と思いを語り合う会とか、企画が出始めました。環境学習セミナー、公開講座、冒険学校や農学校、関係市民も皆さん、何千人もが場と時を共有した東京学芸大学彩色園で、1泊2日で過ごせたらよいかと思います。

9月5日に、代表幹事はじめ8名出席して、準備会的な話し合いをしました。詳細は未定ですが、おおよその仮案です。

日時：2025年10月初旬、1泊2日

話題：冒険探検と食文化（仮題）

場所：東京学芸大学彩色園など

内容：写真展、談話会、記念誌の発行など

## 3. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全NP04団体と3個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの12世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

<https://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

## ○ 報告

### 1) 雑穀栽培見本園

①今年も宮本茶園の雑穀畑は継続しています。収穫や網の片付けなどの作業にご協力ください。作業予定などの連絡先は宮本さんです。キビの収穫は済みました。防雀網撤去は10月20日（日）を予定しています。ご協力ください。宮本茶園へのご連絡、かさねてご参加をお待ちしています。 [kwangjuu1980@yahoo.co.jp](mailto:kwangjuu1980@yahoo.co.jp)

②簡単な栽培や加工、調理法などは下記にあります。適宜、精白、製粉して、参加者の方に差し上げます。簡単な栽培、加工、調理についてお伝えします。不明なことがありましたら、メールください。

栽培法 [雑穀 ～とりあえずの栽培法 \(milletimplic.net\)](http://milletimplic.net/farmsklec8p.pdf)  
[farmsklec8p.pdf \(milletimplic.net\)](http://milletimplic.net/farmsklec8p.pdf)

加工法 [雑穀類の加工方法 \(milletimplic.net\)](http://milletimplic.net)

詳細は『日本雑穀のむら』『雑穀の民族植物学』を検索してお読みください。

2) 第35回環境教育学会大会で一般発表（8月30日）と自主課題研究（9月1日）を台風10号接近の中で、下記の通り実施しました。200名の参加予定が、欠席が多く、よほど寂しく見えました。

自然文化誌研究会のメンバーの協力を得て、この学会の準備および初代事務局長として、編集子はこの学会を創りました。もちろん、高名な先達沼田眞さんはじめ、多くの方々との共同作業でもありました。今回は、学会創業者の直言として、10年振りに1年だけ会員に戻って、次の通り、一般口頭発表と自主課題研究を行いました。

○一般発表：木俣美樹男 環境学習による心の構造と機能の文化的進化

15名ほどの参加で、講演者の欠席もあり、質疑の多くの時間が取れて、熱心な学生と友人たちの新しい出会いを繋ぐこともできてよかったです。卒業生ら10名ほどから、挨拶されました。

○自主課題研究：希望を創る環境学習を求めて

人新世における自己家畜化に抗い、生き物の文明へと移行するために、根底的な生活様式の実践哲学としてELF環境学習過程を提案し、日本社会を復興する希望、学問について話し合いたい。若い方たちと直接話して、反応を見たいなど思ったのですが、参加者はまったくありませんでした。12年前には24名の参加者がありました。学会の未来にエールを贈るつもりが、残念ながら大方の人が帰ってしまいました。主催者5人で話し合いました。この成果は学会誌に研究論文として投稿する予定です。

資料集

<https://www.milletimplic.net/university/pelcivicuu/jsee24mk/jsee2024.html>

\*発表スライド、学会の歴史と環境科、環境教育推進法、環境学習原論資料 などを  
含む

◎伝統知顧問の中川智さんが9月23日に他界されました。9月30日の葬儀には自然文化誌研究会から献花し、長年の交友のあった安孫子、木俣、宮本、黒澤が参列ないし、弔問しました。降矢静夫さんに続く山村農の誇りを持って、技術、在来品種種子

を伝えてきた方です。ご尊父の代からの交友です。雑穀研究会や雑穀栽培講習会では講師をしてくださり、国内外からの来客は大方ご紹介してきました。尊敬の念を持って、ご冥福を祈ります。

~~~~~

植物と人々の博物館 (山梨県小菅村) :

館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男 (東京、専任研究員、担当運営委員)、西村俊 (石川、担当理事)、井村礼恵 (東京、担当運営委員)、川上香 (長野)、渡辺隆一 (長野)、Sofia M. Penabaz-Wiley (千葉)、伊能まゆ (ベトナム)、大澤由実 (神奈川) ほか

公式 HP：自然文化誌研究会/植物と人々の博物館 <http://www.npo-inch.ppmusee.org/>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 kibi20kijin@yahoo.co.jp

民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>

エコミュージアム日本村／ミュージアム研究会 (山梨県小菅村)：代表 亀井雄次 (山梨小菅村)

自然文化誌研究会：代表 中込卓男 (東京)、副代表 中込貴芳 (東京)、小川泰彦 (埼玉)

事務局長：黒澤友彦 (山梨県小菅村)

~~~~~

## 編集子独り言：

何もかもが、心のありようによります。心とは何か、脳科学ではかなりのことまでが解明されて、神経伝達物質ドーパミン、オキシトシン、セロトニン、 $\beta$ -エンドルフィンが幸せ物質だそうです。このような物質的基礎も大事ですが、私は将来、向精神性錠剤を飲んで、あるいはアバターとなって生理学的に幸せになるよりも、現実世界で、生態学的な幸せを勧めたいです。そこで、心の構造と機能について考察してきました。環境を深く学び、心を発達させること、そのような学びの過程が再生することを求めたいです。中川智さんのご逝去に際して、先達への敬意と、誠実な人生の誇り、家族や友人の幸せを願うところです。

## 写真：



ツルボの大群落、ヒガンバナは咲くのが遅くて、開花が揃わなかった。



久しぶりに、ムーちゃんがいた。



ジュウガツザクラ、オシロイバナの花色の変異



野生アサガオ、メダカ水槽



宮本茶園の雑穀栽培見本園 9月16日

